

アーカスプロジェクト 2024 いばらき | アーティスト・イン・レジデンスプログラム

オープンスタジオ開催

2024年11月14日[木] - 17日[日]

招聘アーティスト3組による、90日間の滞在制作の成果発表！

この度、アーカスプロジェクトは、今年度、公募によって選ばれた3組のアーティストの滞在制作の成果を「オープンスタジオ」で公開します。

オープンスタジオとは、アーティストの制作場所であるスタジオを開放し、滞在制作における取り組みを芸術愛好家のみならず広く市民にお披露目する機会です。今年招聘したアーティストは、オーストリアを拠点に活動するエヴァ・ザイラーとインドネシアのコレクティブ、ハイフナー、そして国内からは沖縄を拠点とする丹治りえの3組です。ザイラーは蚕と人間の関係を、変態という特性や労働の観点から調査し、両者の重なり合う部分を彫刻的なアプローチで表します。ハイフナーは、劇作家で文筆家であるインドネシアの文化人、ダナルトをモチーフに、インドネシアの歴史やアイデンティティ、インドネシアと日本の交流について、残された資料や証言から探ります。そして、丹治は、戦後米軍に軍事訓練用に接收された土地でその後返還された水戸射爆場の調査を起点に、茨城と沖縄の地を重ね合わせ、土地の政治利用をめぐる過去・現在・未来を想像させる空間を作ります。

オープンスタジオは、作品を鑑賞するだけでなく、アーティストに会って制作の過程や表現の背景にあるものについて直接話せる交流の場でもあります。また、来場者が、アーティストたちと新しい情報や知識を交換する場面もよく見られます。

期間中には、スタジオツアーやキッズツアー、トークといった関連イベントも開催します。ぜひ事前の告知、取材にご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。

概要

会 期：2024年11月14日[木] - 17日[日] 13:00-18:00
会 場：アーカススタジオ（茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 2階）
入場無料、日本語通訳あり
ウェブサイト：<https://www.arcus-project.com/news/2024openstudio/>
アーティスト：エヴァ・ザイラー、ハイフナー、丹治りえ

会期中のプログラム

◎キッズツアー

11月17日(日) 11:00~12:15

小学生対象のスタジオ鑑賞ツアー。〈日本語のみ〉定員15名 **※要予約**（予約締切：11月15日[金]）

予約：以下のURLまたは、QRコードから

<https://www.arcus-project.com/news/2024openstud>



◎スタジオツアー

11月16日(土) 14:00~15:00

アーカスプロジェクトディレクター小澤慶介によるガイド付きスタジオ鑑賞ツアー。

〈逐次通訳あり〉 **※予約不要**

◎トーク「エコロジーとコモン」

11月16日(土) 16:00~18:00

スピーカー：アリツィア・ロガルスカ（アーティスト ※オンライン参加）

藤本裕美子（アーカスプロジェクト コーディネーター）

気候危機、生態系の危機などあらゆる危機に直面するこの時代と芸術の関係を、ベルリンを拠点とするポーランド生まれのアーティスト、アリツィア・ロガルスカの実践を通して考えます。ロガルスカは、これまで東欧をはじめとするさまざまな場所の社会構造や政治的背景を労働という観点から洞察し、農家や移民労働者らとともに地域が抱える社会問題に対する具体的なアイデアを提案してきました。今回はそのなかでも政治や科学が複雑に絡まり合うエコロジーの問題を扱うプロジェクトを紹介し、地球温暖化を加速させたグローバル資本主義とも、国家主導の社会主義とも異なる社会を想像してみたいと思います。それは小さなスケールであっても、より実践的で自治的な方法で、自分を取り巻く生活環境や生態系と向き合うことから始まるのかもしれない。

〈逐次通訳あり〉

※現地参加の方は予約不要、オンライン参加の方は要予約（予約締切：11月14日[木]）

予約：以下のURLまたは、QRコードから

<https://www.arcus-project.com/news/2024openstudio/>



主催：アーカスプロジェクト実行委員会（茨城県、守谷市、公益財団法人茨城県国際交流協会）

後援：国際交流基金、ドイツ連邦共和国大使館 認定：公益社団法人企業メセナ協議会

レジデンスプログラム参加アーティスト

エヴァ・ザイラー Eva Seiler



ドイツ生まれ、オーストリア、ウィーン在住。
アーカスプロジェクトでは、茨城県内の結城紬や群馬県の富岡製糸場、養蚕の現場を訪れて実際に蚕の生態を観察。同時に、養蚕で使用される設備や建築なども調べ、蚕と人間の関係から近代社会を映し出す作品を作る予定。

ザイラーは、これまでに、有機的な素材と工業製品によって作られるオブジェによって、人間と動物の関係を問う作品を制作している。作品は、実際に人間や動物に使用されながら、社会文化的に構築された両者の関係を再文脈化する。文献をあたり、現地での調査を踏まえて制作される作品は、理論や学説をなぞる資料的なものではなく、人間とそれを取り巻くアクターの有機的で動的な関係を表象するものとして提示される。彫刻を学んだことで得られた確かな造形力と空間に対する理解力、そこにリサーチによる人間をめぐる新たな関係の探究心が加わることで、彼女の創作活動は近代以後の可能性を照らし出す。



Yvonne インスタレーション、2022



Together the Parts (seat object) インスタレーション、2021

Photo: Markus Gradwohl

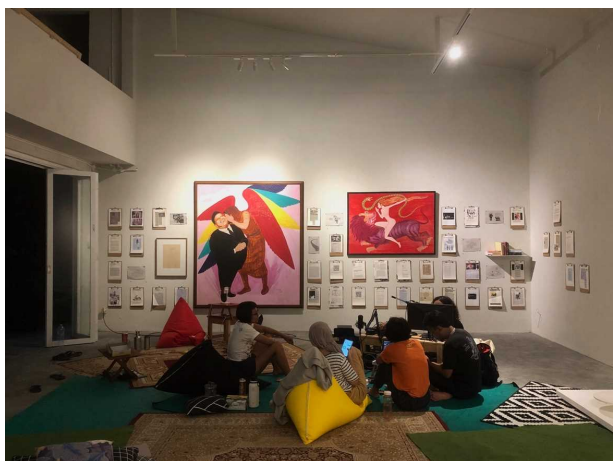
ハイフン Hyphen

2011年に設立したインドネシアのジョグジャカルタで活動する7人のリサーチグループ。

アーカスプロジェクトでは、劇作家で文筆家であるインドネシアの文化人、ダナルトを起点にインドネシアと日本の関係を探る。彼は、1970年の日本万国博覧会インドネシア館の舞台美術を手がけたほか、1990年から1991年まで京都に滞在して小説を書いた。また、2004年には富山で演劇祭に参加していた。ダナルトの足取りを追い、制作物を再考することから、同時代のインドネシアだけでなく、その日本との関係の輪郭を描き出す。

リサーチに重点をおくその表現は、出版物、展覧会、アーカイブ、またオープンエンドな対話、カラオケ、バーベキュー、宴会など、さまざまな形で発表される。特定の人物を選び、その人物が果たした功績からインドネシアの歴史やアイデンティティを紐解くことで、国家なるものの複雑な姿を捉えようと試みる。

Taman Bacaan Danarto at Jendela Institute (Yogyakarta)
プロジェクト、2022



丹治りえ Tanji Rie



《みおぼえのある風景》
インスタレーション、2023

福島県生まれ、沖縄県在住。

アーカスプロジェクトでは、戦後、1946年から1973年まで米軍の軍事訓練に使われていた水戸射爆場とそれにまつわる市民の記憶について調べ、米軍基地と隣り合わせで生活文化がある沖縄の未来を問う作品づくりをしている。それは、写真やオブジェ、また仮説の構築物などが組み合わさったインスタレーションとして提示される。

生まれ育った福島県と現在生活をしている沖縄県が社会的な構造によって似たような境遇を経験していることに着目し、仮設的な構築物を制作して人間とモノ、また人間と環境の関係をさぐっている。福島県や沖縄県には、市民の意志よりも国家の政治的な判断によってその進むべき道が決定されたという過去がある。権力が振られると、有用だったものが無用になるなど急な価値の転換が起こることがある。丹治は、そうした社会的な力学によって生まれる構造とともにその影で見過ごされてしまう個人的な出来事に関心を寄せ、モノや場に対する人間の感覚を揺さぶる作品を制作する。

トーク「エコロジーとコモン」スピーカー紹介

アリツィア・ロガルスカ Alicja Rogalska

ベルリンを拠点に活動するポーランドと英国にルーツをもつアーティスト。制作においてはリサーチに重きをおき、日常の社会的構造や政治的背景に焦点を当てる。特定の文脈において多様な人々と協働し、状況の構築、パフォーマンス、映像、インスタレーションなどを通して未来のための解放的なアイデアを共同で模索している。近年の活動に、Biennale Matter of Art (プラハ、2024年)、Kunsthalle Recklinghausen (レックリングハウゼン、ドイツ、2024年)、Biennial Videobrasil (サンパウロ、2023-24年)、New Contemporaries (ロンドン/ブラックプール、2023-24年)、Jogja Biennale (ジョグジャカルタ、2023年)、Scherben/Berlin Art Prize (2022年、大賞)、マニフェスタ14 プリシュティナ (2022年)、OFF Biennale (ブダペスト、ハンガリー2020-21年)などでの発表がある。現在、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ美術学部博士研究員。



写真：Alina Žemojdzin

※プログラムの内容については変更の可能性があります。
予約や最新情報は 下記の URL または QR コードより確認してください。
<https://www.arcus-project.com/news/2024openstudio/>



お問い合わせ先

アーカススタジオ (火-土 10:00 -18:00)

〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 2 階 担当 | 恩田・藤本

TEL | 0297-46-2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com

アーカスプロジェクト実行委員会事務局

茨城県政策企画部地域振興課 担当 | 吉田、堀江 TEL | 029-301-2678

アーカスプロジェクトの概要

1 経緯

東京藝術大学の取手市進出等を踏まえ、茨城県南地域において国際性と芸術をキーワードとして新たな施策の展開が求められたのを受け、平成3年度に、東京藝術大学長の平山郁夫氏（当時）を委員長とする検討委員会を設け、「国際芸術文化交流拠点整備構想」（＝アーカス構想）を策定した。

このアーカス構想の策定を受け、アーカスプロジェクトとして平成6年度にプレ事業を実施、平成7年度から実験的に事業を行い、平成12年度から本格的に展開し、令和6年に30周年を迎える。滞在期間中に行う創作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」プログラムを核として、身近に芸術家と交流し、楽しみながら芸術創造活動を体験できる機会を提供することを通じ、県民が創造力を発揮できる環境を創出し、魅力ある地域づくりと本県のイメージアップを図る。

※「アーカス=ARCUS」とは、ラテン語で「門」を意味し、本県が芸術の門となることを、また、「ART×FOCUS（＝芸術の中心地）」となることを願って命名。

2 目的

海外から、現代芸術分野の若手アーティストを一定期間茨城県に招き、アーティストが滞在期間中に行う創作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」プログラムを核として、身近に芸術家と交流し、楽しみながら芸術創造活動を体験できる機会を提供することを通じ、県民が創造力を発揮できる環境を創出し、魅力ある地域づくりと本県のイメージアップを図る。

3 推進体制

主催：アーカスプロジェクト実行委員会（茨城県、守谷市、（公財）茨城県国際交流協会）、茨城県南芸術の門創造会議（茨城県、取手市、守谷市、東京藝大、アーカス、取手アートプロジェクト）

後援：招聘アーティスト出身国の大使館、国際交流基金

協賛：令和5年度（12社）R5.11.1現在

広沢商事(株)、関彰商事(株)、鹿島埠頭(株)、(株)常陽銀行、(株)筑波銀行、守谷市商工会、(株)茨城ポートオーソリティ、(株)壁工房、中央労働金庫、茨城県信用保証協会、(株)千葉銀行、アサヒビール(株)

認定：（公社）企業メセナ協議会社会創造アーツファンド

ネットワーク：Res Artis、AIR NETWORK Japan

《アーカスプロジェクト実行委員会》

| | |
|-----|---------------------|
| 会長 | : 茨城県知事 |
| 副会長 | : 茨城県政策企画部長、守谷市長 |
| 監事 | : (公財) 茨城県国際交流協会理事長 |

事務局 : 茨城県政策企画部地域振興課（事務局長：地域振興課長）

アーカススタジオ：ディレクター1名・コーディネーター2名
【守谷市生涯学習施設「もりや学びの里（旧小学校校舎）」内】

4 主要事業

○アーティスト・イン・レジデンスプログラム

- ・公募によるアーティスト招聘
- ・アーカスリサーチ（自主指導型のレジデンスプログラム）

○地域プログラム

- ・日比野克彦氏や若手アーティストによるワークショップ開催
- ・アーカススタジオのスタッフ等による講座（アートカレッジ）開催